大塚裕之*: シカ科 “*Depéretia* 亜属” について

Hiroyuki OTSUKA: On the subgenus “*Depéretia* SHIKAMA”, Cervidae

日本の更新世の哺乳動物化石群の特徴種の 1 つであるシカ科 *Depéretia* 亜属は下部葛生層産のニホンムカシジカ *Cervus praenipponicus* SHIKAMA をもとに設立された (SHIKAMA, 1936). 本亜属に含められるとされる種は, その大半が日本列島から産したものである. 本亜属の特徴はその角の形態にあるとされている. 角は成長しても 2 回より多くは分岐せず, 第 2 枝が内側へ出る点, 両角は外側へやや拡がり, 前方からみると V 字型をなす点などの諸特徴から, 東南アジアやインドに現生するキタール (*Axis* 亜属) に比較される. しかし本亜属に含められる諸種は *Axis* 亜属にくらべると第 1 分岐点がすこぶる高い位置にあり, その分岐角は狭く, 主幹が後方へ弓なりにならない点などの特徴から, *Axis* 亜属から区別されている (SHIKAMA, 1936, 1941, 1949; OTSUKA, 1967, 1977; OTSUKA & SHIKAMA, 1977). さらに本亜属はフランスの Villafranchian に多産する古型シカである *Arvernoceros* HEINTZ, 1970 (= *Anoglochis* DEPÉRET, 1923) に類似した形態をもち, その類縁関係が指摘されている (SHIKAMA, 1936).

最近筆者はヨーロッパの化石シカ類について検討する機会を得たが, その際, パリの Musée National d'Histoire Naturelle の HEINTZ 博士から, 日本のシカ化石に対して用いられている “*Depéretia* 亜属” の命名規約上の問題点について次のような指摘をうけた. KREZOI (1941) が指摘しているように, “*Depéretia*” は TEPPNER (1922) によって最初に pectinid グループに, その後 SCHAUP (1923) によって antelope に対して使用されている. 従って *Depéretia* という名称をシカの亜属名として用いることは無効である. KREZOI (1941) は *Depéretia* SHIKAMA に代わるものとして新亜属名 *Nipponicervus* を用いることを提唱し, 次のように述べている. “Eine der Reihe nach schon dritte Verwendung des Names *Depéretia* ist bei SHIKAMA (Proc. Imp. Acad. Tokyo, 12, 292) zu finden, der ihn 1936 zur Bezeichnung einer auf *Cervus praenipponicus* SHIKAMA begründeten Untergattung von *Cervus* aufgestellt hat. An Stelle

des zweifach (TEPPNER, 1921, SCHAUP, 1923) prä-okkupierten Names *Depéretia* bringe ich *Nipponicervus* n. nom. (Holot.: *Cervus praenipponicus* SHIKAMA) in Vorschlag”. しかしながら筆者を含む日本の古脊椎動物研究者の多くは, この命名規約上の問題点に注意を払うことなく *Cervus* 属の 1 亜属名として *Depéretia* をこれまで用いてきた. KREZOI (1941) の指摘は正しく, 氏に従がい今後 *Depéretia* SHIKAMA の代わりに *Nipponicervus* を用いることにしたい.

Nipponicervus には従来 9 種が知られている. 1. *Cervus praenipponicus* SHIKAMA, 2. *C. kazusensis* MATSUMOTO, 3. *C. naorai* SHIKAMA, 4. *C. urbanus* SHIKAMA, 5. *C. trassaerti* SHIKAMA, 6. *C. shimabarensis* OTSUKA, 7. *C. syatinensis* SHIKAMA, 8. *C. kokubuni* SHIKAMA, 9. *C. akiyoshiensis* OTSUKA. 瀬戸内海小豆島沖の海底からは, ナウマンゾウや豊富なシカ化石群によって特徴づけられる後期更新世の哺乳動物化石群を産する (OTSUKA & SHIKAMA, 1977). シカ化石は 8 種知られているが, *Nipponicervus* 亜属は全体の約 30% を占め, ニホンムカシジカ *praenipponicus*, カズサジカ *kazusensis* の 2 種が識別される. この 2 種はそれぞれいくつかのタイプの角を含み, それらは幅広い変異を示している (OTSUKA & SHIKAMA, 1977). *kazusensis* の角は *praenipponicus* のそれよりも第 1 分岐点が高い位置にある. このシカ化石群集の研究の結果, 従来報告された *urbanus*, *trassaerti*, *shimabarensis* の 3 種は *kazusensis* の, *naorai* は *praenipponicus* の変異の中にそれぞれ含まれることがわかった. また台湾の頭嵙山層群崎頂層の左鎮動物群 (早期更新世) から報告されている “*Depéretia*” の 2 種 *kokubuni* および *syatinensis* (SHIKAMA, 1937) は *kazusensis* であると見なされたこともあるが (高井, 1438), 筆者が検討した結果, これらは *Elaphurus* 属の 1 種として一括されることがわかった (この研究結果については, 近く発表の予定である).

結局 *Nipponicervus* 亜属は *kazusensis*, *praenipponicus*, *akiyoshiensis* の 3 種からなる. 予察的に述べると, *kazusensis* は早期～前期更新世に, *praenipponicus* は中期～後期更新世に, *akiyoshiensis* は後期更新世～最新世にか

1977 年 4 月 25 日 受理

* 鹿児島大学理学部地学教室.

けて日本列島を中心に繁栄したようである。またこれらの種間の角の形態変化は漸移的である。ツシマジカ *C. (Sika) pulchellus* IMAIZUMI の角の分岐状態は“Sika型”であるが、*Sika* 亜属の他の諸種にくらべ角の第1分岐点が高く、*Nipponicervus* 的であり、またその頭骨を構成する涙骨の特徴は *akiyoshiensis* のそれに類似する (OTSUKA, 1977)。つまり *Nipponicervus* 亜属は更新世末期ないし最新世初期に絶滅したようであるが、その血縁上の密接な関係を示唆するシカは現在も残存している。

本小稿を発表するにあたり、いろいろと貴重なご意見をいただいたパリの Musée National d'Histoire Naturelle の HEINTZ 博士、横浜国立大学の鹿間時夫教授、鹿児島大学の早坂祥三教授、国立科学博物館の長谷川善和博士ならびに東京大学総合資料館の速水 格博士に感謝申し上げる。

文 献

- DEPÉRET, C., 1923 : Nouvelles études les ruminants pliocènes et quaternaries d'Auvergne. *Bull. Soc. Geol. France*, **12**, 247—284.
- HEINTZ, E., 1970 : Les cervidés villafranchiens de France et d'Espagne. *Mem. Mus. Nat. Hist. Nat.*, **1**, 241—255.
- KREZOI, von M., 1941 : Präokkupierte Namen im Säugetiersystem. *Földf. Kozl.*, **71**, 349—350.
- OTSUKA, H., 1967 : Pleistocene vertebrate fauna from the Kuchinotsu Group of West Kyushu, Pt. II. *Mem. Fac. Sci., Kyushu Univ.*, [D], **18**, 277—312.
- , 1977 : Late Pleistocene *Nipponicervus* (cervid, mammal) from the Akiyoshi plateau, West Japan. *Trans. Proc. Palaeont. Soc. Japan*, [n. s.], no. 104, 448—458.
- and SHIKAMA, T., 1977 : Studies on fossil deer of the TAKAO Collection (Pleistocene deer fauna in the Seto Inland Sea, West Japan—Part I). *Bull. Nat. Sci. Mus.*, [C], **3**, 19—21.
- SHIKAMA, T., 1936 : *Depéretia*, a new subgenus of *Cervus*, with a new species from the Pleistocene of Japan. *Proc. Imp. Acad. Tokyo*, **12**, 19—21.
- , 1937 : Fossil cervifauna of Syatin near Tainan, southwestern Taiwan (Formosa). *Sci. Rept. Tohoku Imp. Univ.*, [2nd], **19**, 80—83.
- , 1941 : Fossil deer from Japan. *Jubl. Publ. Comm. Prof. Yabe's 60th Birthday*, **2**, 1125—1170.
- , 1949 : The Kuzuü ossuaries. Geological and paleontological study of the limestone fissure deposits in Kuzuü, Totigi Prefecture. *Sci. Rept. Tohoku Imp. Univ.*, [2nd], **23**, 1—201.
- SCHAUP, S., 1923 : Neue und wenig bekannte Carvicornier von Senèze. *Eclog. Geol. Helv.*, **18**, 281—295.
- TEPPNER, W. von., 1922 : Lamellibranchiata tertiaria “Anisomyaria”, II. In DIENER, ed. : *Fossilium catalogus, I. Animalia*, pars **15**, 65—296.
- 高井冬二, 1938 : 本報における新生代哺乳動物 (予報). *地質雑*, **45**, 745—764.